西東京市市民協働推進センター

令和元年度第3回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和元年6月18日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第3,4会議室
■出席委員：海老澤委員、熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、柴委員、樋口委員、久松委員、三好委員＜以上9名、五十音順＞
■事務局　：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進係長、青木主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、5月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：市民活動相談にある“にしねこフェスティバル”は毎年やっているのか。

事務局：昨年から始まった。来年の2月22日の猫の日に実行委員会形式で市と一緒に開催したいという事で相談があった。

2. 6月以降の事業について

事務局より、6月以降の実施事業について説明があった。

委員長：武蔵野大学見学実習はどうだったか。

委　員：昨年に続いて、2回目となる。社会福祉士を目指す学生が、専門職としての学びのスタートとして、社会福祉士の実際の働く姿を知ることを目的とした実習だ。

委員長：6月1日のゆめサロンの様子が知りたい。

事務局：市内には子ども食堂が準備中を含め9団体ある。その中の8団体が参加した。1団体は活動日であったため不参加となった。子ども食堂の主催者側にも情報交換の場になったようだ。また市民参加が20名程あり、その中に中学1年生の参加があった。小学校まで私立、中学から公立に通うようになり実際に子どもの貧困があるのだと知り、地域社会を学びたいと思ったそうだ。

事務局：フードドライブの説明をし、自分に出来ることから参加したいという事で、ボランティアに2名応募があった。

委員長：市内の子ども食堂主催者が運営で困っていることはあるのか。

事務局：資金がない、人がいないということでは困っていない。例えば、市内の畑でキャベツが取れすぎたとか「情報ネットワークの構築」をどうしたらよいかが課題になっている。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：質問、意見が特にないのであれば、前回の会議録は確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重要事業の企画）について

事務局より、NPOパワーアップ講座「あなたが動く、社会が変わる」（企画案）について説明があった。

委　員：開催目的からはどの様な話が聞けるのか分からない。例えば、市民活動団体のメンバーが固定化され新規加入メンバーがいないので活動継続できないなどの一般的に持っている問題の解決になるとか、具体的なものだと良い。格差社会や貧困などは大切なことだが、自分が活動している団体では関係ないと感じてしまい参加に繋がらないように思う。なにが問題で解決する方法としてこんなことをしたなど、テーマがはっきりわかると参加を考えるきっかけとなる。

事務局：講師とこれから細かく詰めていく。湯浅先生のフィールドは貧困だが、そんな切り口から自分達が市民活動を始めたことや何を大切にしているかなど、全体的な話になると思う。

委　員：参加を呼びかけるチラシに湯浅先生の絡んでいる団体のHPのURLなど載せて、前もって知ってもらえる情報があれば参加者の幅も広がるのではないか。

委　員：このタイトルだと参加者はもともと意識の高い人になってしまうと思う。関心のない人も誘いたいのであれば、「PTAに入らないし会費も払わないけどPTAのメリットだけは受けたい人がいるが、どうしたらよいか。」など、ヒントになる様な話なら聞きたいのではないか。これから打ち合わせをするならそんなこともヒントにして欲しい。

事務局：NPOパワーアップ講座なので市民も参加してもらいたい。市民活動をしている方が共通の悩みや壁を越えられるヒントになり、それぞれの活動に落とし込めるような話、市民活動の原点みたいな話が聞けたら良いと考えている。PTAも身近な活動だと思う。

委　員：PTAに協力的な方は、やはり市民活動にも積極的である。そこが切り口となればヒントがもらえる。

委　員：これは良いと思う。50名が参加し自分の団体へ持って帰り、団体の活性化のきっかけになるのではないかと思う。PTA会長へも周知してはどうか。

副委員長：私たちの本当の力や可能性を語る部分が前面に出てくれば、自分達も励まされるように思う。活動していると疲れることもあるので、もっとこうしたら可能性が出てくるなどが伝わる文言を使ってはどうか。

委　員：可能性を語る部分から、団体が継続することの難しさやメンバー間の温度差など、そこまで想像できなかった。

委　員：志があって疲れた人に精神論をたたき込むかのようにも受け取れる。

委　員：「ヒントがたくさんあるよ」みたいなチラシがいい。

副委員長：仕事している人や子育てしている人が「どうして誰かのためにボランティア活動しているのか」と疑問に思ったとき、「活動をすることにより何か得られるものがある」ことが伝わると良い。

委　員：イメージですが、湯浅先生の体験をとおした話だと、1事例であり湯浅先生だからできたのではないかという跳ね返りがくるのではないか。市民活動のそれぞれの地についた問題を取り上げてもらい、それぞれの視点からどう解決を見出していくかという示唆があると良いのではないか。又、講演と質疑応答の時間配分だが、対話の部分をもう少し増やしてはどうか。

事務局：湯浅先生は対話型だと思うので、時間配分は修正する。確かに「湯浅先生だからできたんだよね」とならないようにすり合わせをしていく。

副委員長：UD トークを取り入れるなら UD トークがあるから、参加できるという人にチラシが届くようにして欲しい。

2.受託に関わる協議スケジュールについて

事務局よりこれからの 5 年間の取り組み検討について説明があった。

4. そ の 他

1.第三者評価について事務局より説明があった。

2. 次回運営委員会日程について

日時：7 月 16 日（火）19 時～20 時

会場：イングビル 3 階　第 3,4 会議室